

カトリック

広島教区報

いつくしみの門、開かれる

主のご降誕と新年のお慶びを申しあげます

広島教区管理者 肥塚倅司神父

「イエス・キリストは、御父のいつくしみのみ顔です。・・・ナザレのイエスは、そのことばと行い、そしてその全人格を通して、神のいつくしみを明らかになさいます。」^{注1}
第二バチカン公会議閉幕五十周年を記念して「いつ



「聖年の扉」を開く、ヴィタリ神父と肥塚神父
世界平和記念聖堂正面中央の扉

くしみの特別聖年」を始め、るにあたっての大勅書の冒頭の教皇フランシスコのことばです。
先ず第一に、わたしたちは、イエスのことばと行い、全生涯によって明らかにされた父なる神のいつくしみを、しっかりと観想しなければなりません。
そして、イエスの生き方を観想することによって、「教会は自らの第一の使命が、大きな希望と大きな矛盾に満ちたこの時代にこそ・・・（父なる神の）いつくしみを告げ、イエス・キリストの啓示の中心としてそれを生きていることによって、何よりもいつくしみの真の証人である。」^{注2}使命を確認し、実行して行くのです。

No. 103

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

教皇フランシスコは、わたしたちが何に力をいれるべきかを熱く語りかけています。

「わたしの心からの思いは、この大聖年の間にキリスト者が、身体的な慈善のわざと精神的な慈善のわざについてじっくり考えてくださることです。それは、貧困という悲劇を前にして眠ったままであることの多いわたしたちの意識を自覚めさせ、貧しい人が神のいつくしみの優先対象であるという福音の核心を、よりいっそう深く理解するため一つの方法となることでしょう。」^{注3}
慈善のわざに励みながら、この聖年のモットー「いつくしみ深く 御父のように」を、日々の生活の中で生きていきたいと思います。

^{注1}「教皇フランシスコ イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔 いつくしみの特別聖年公布の大勅書」一／^{注2}同二十五／^{注3}同十五

いつくしみの門、開かれる・コラム
教区の動き・殉巡ネット・予備神学校
家族大会
世界平和記念聖堂関連・J・CaRM
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒

一面
二／三
四面
五面
六／八面

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

「御言葉は人となり、わたしたちのうちに住まわれた。」
神の子が人となり、わたしたちの世界に生まれたことは空前絶後の出来事ですが、それは過去の歴史に刻まれて終わるものではありません。主キリストは、現在も未来もわたしたちと共に歩んでくださる方、インマヌエルです。
▲最近始まったことではないけれど、言葉の持つ力が急速に下落しているというほかありません。最も多くの人がテレビで観るといふニュース番組に登場する政治家たちの言説や言葉づかいにそれが顕著に見て取れるでしょう。
▲「積極的平和主義」を掲げながら、憲法九条の骨抜きや軍備増強を図るとか、福島原発事故原因の糾明も定かでないまま「安全が確保された」と原発を再稼働するなど、言っている言葉とその内容現実のギャップがはなはだし。初めはおかしいと思うことでも幾度も聞かされてい

ると、後には疑問にも思わなくなってしまうひ弱さをわたしたちは持ち合わせていることを自戒したい。▲「星の王子さま」にこんな一節があります。「言葉というのが勘違いのもとなんだ。」日頃、幼稚園児と接していて、子どもは実に言葉、理性よりも感性中心に生きていると感じます。実際、わたしは子どもたちからたくさん力、喜びをもらっています。大人になっても子どものような感性を保ちつつ、状況を分析、判断する力を持ちたい。▲御言葉、すなわち、主イエス・キリストこそ、ウソ偽りのない言葉とわたしたちはミサのたび、本気で心から信仰宣言しているはずですが、いささか心もとないのが現状かもしれませぬ。わたしたちキリスト者は言葉を復権する最高の術をすでに持ち合わせていることを想い起したい。いつくしみの特別聖年にあたって。
(光教会・後藤正史神父)

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇一五年度(第二回) 広島司教区宣教司牧連絡会開催】

去る十二月十三日、二〇一五年度第二回広島司教区宣教司牧連絡会(以下、教区連絡会)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。司祭、修道者、信徒の二十四人が出席した。

昨年度からの広島教区長空位により、教区宣教司牧評議会が開催できない(教会法五百十三条)ため、教区管理者である肥塚神父、平和の使徒推進本部の主催により教区連絡会が開催され、次のことが話し合われた。また、この日の会議の最中に、いつくしみの特別聖年『聖なる扉』の開門式が世界平和記念聖堂で行われたため、その時刻は評議員全員が開門式に出席した。

中、継続して行われる活動について、報告と意見交換が行われた。

《青少年育成》

大西助祭が専任の青少年担当として一緒に活動している。専任として関わることとは重要であり、今後の若い世代の活性化に期待したい。活動としては、八月の教区練成会(米子教会)、木与の海の家の清掃活動、八月下旬には高校卒業後の青年の集い(約二十人参加)、十一月の福山ソフトボール大会参加、更には教区青年大会を開催し約五十人が参加した。また毎週木・金・土曜に青少年情報センターを開いている。とにかく自分たちでやってみる、という活動趣旨である。

《召命促進》

司祭養成として具体的に、前田大司教が掲げられた「十年間で十人の司祭叙階」を目指す。

予備神学校の活動として、第六回を九月に、第七回を十一月に開校した。今年度は、第八回を二月に開校予定である。小中高生も

十六名になり、互いのつながりができてきている様子。十一月は、カトリック神学院福岡キャンパスを訪問した。予備神学校の活動内容を知った保護者から、次回から参加させたいとの声も聞こえ、少しずつでも成果を感じている。



《教区共通カテキズムの作成》

初聖体、堅信、結婚の教区共通テキスト(カテキズム)作成の専門委員会を立ち上げ、第一回を七月に、第二回を九月に開催。次回は二月ごろ開催予定。本委員会は、昨年度までに既に作成されていた素案の内容について検討している。広島教区独自の内容をどのよ

うに盛り込むかが今後の課題である。

《津和野乙女峠殉教者列聖運動》

「なぜ津和野の三十七人だけなのか?」「他の教区との連携が不十分ではないか?」という共通の課題において次のことを中心に検討を行う。

- もつとみんなに知ってもらうため、公式パンフレットを作成する。
- 浦上四番崩れに関係する教区司教の理解と協力を願う。
- 「列聖を願う会(仮称)」として進め、底辺を広げていく。そのために会として規約等が必要。

次の議題、「教区創立一〇〇周年に向けてのテーマ「家庭へのチャレンジ(十四年〜十六年)」の取り組み」について、各地区から報告があった。

《岡山・鳥取地区》

ある程度、各教会に意識づけられていると感じる。毎日の生活が家庭へのチャレンジと言える。「信仰と家庭」をテーマにした黙想

会。各家庭での祈りの実践。グループでの祈りの会。ミサ後「家庭」についての分かち合いなど。

《広島地区》

十一月十五日に祇園教会で「家族大会」を開催。本大会に関連したアンケート、当日の分かち合いの内容について、今後、分析しまとめていく予定。

《山口・島根地区》

二〇一六年度は、次のテーマ「教会へのチャレンジ」を踏まえ、「家庭」と「教会」について共に考えていく。更に次の三年後は、テーマ「社会へのチャレンジ」を踏まえ、「教会」と「社会」を共に考えていく予定。

《伯耆ブロック》

緩やかな連携。高齢の方の教会への送り迎えのサポート。国際結婚の夫婦、その子どもたちとの積極的な交わりを教会全体でサポート。三教会が、互いに訪問し合い、行事、活動を通して喜びを分かち合う。

《教区全体の動き》

広島地区で開催された

家族大会で実施した「アンケート」分ち合い記録」は、具体的な内容もあり、分析することで、これまでの二年間の成果と「家庭へのチャレンジ」のまとめとして三年目を迎えるための参考になるものと期待する。

次に、『平和年』についての報告。続いて『奉獻生活の年』についての報告が各地区の修道女連盟（修女連）からあった。

教区連絡会の後半は、各地区、ブロックの報告に続いて、世界平和記念聖堂保存活用委員会（耐震診断検討委員会）から、補強、修理検討を進める上での考え方、補強方針について説明と報告があった。

※関連記事五ページ参照。

以上のことが話し合わせ、祈りと祝福のうちに三時間の教区連絡会を閉会した。

なお、本教区連絡会は、現状の確認、報告事項の連絡が目的に開催される。意見や要望など、平和の使徒推進本部までどうぞ。

**世界連邦
岡山県宗教学者大会**
岡山・鳥取地区
きょうとチーム

十一月三十日（金）、岡山県倉敷市の大本岡山本苑万寿殿にて第三十五回世界連邦宗教学者大会が開催されました。

岡山県下に展開する諸宗教の年一回開催の合同祈願祭で、各宗教施設を会場とする毎年持ち回り制の祭儀です。会場となる宗派が儀式を取り仕切り、その作法に則って祈願祭が行われますので、宗教の異なる者にとっては、とてもエキサイティングな催しを体感する事になります。

今年倉敷市にある大本岡山本苑万寿殿を会場に、凡そ三百人が個性ある儀式と独特



大本岡山本苑万寿殿の様子

の雰囲気にも包まれることになりました。キリスト教枠として二十席が用意されていますが、カトリックのみの参加となり、倉敷ブロック信徒を中心に十六名程が参加しました。

宗教は違っていても「神を感じさせる聖なる空間」に同席させて貰えるありがたさを憶え、それぞれの信仰を考える上で大きな助けになりました。

他宗教と触れ合うことのできる祈祷会のような合同集会には、出来るだけ多くの信徒に参加していただきたいと望んでいます。

第二部に行われた講演会「海を恨まず」では、東日本大震災からの復興に「自然の力」を頼ることがいかに大事なことであり、自然と共に生きていく事しかできない人間の無力な、しかし、偉大な姿が語られた。

**教区殉巡ネット
第四回全体会議開催**

十一月十四日（土）萩教会で開催。十二年前の教区八十周年大会で発足した「教区殉巡ネット（殉教地・巡礼地ネットワーク）」は、事務局を四年毎に岡山鳥取・広島・



萩教会 信徒会館での会議の様子 中央に肥塚神父

山口島根の三地区で持ち回りし、今年度で一回りの節目を迎えた会議であった。津和野や鶴島等、殉教地や巡礼地を抱える教区内二十箇所程の教会や活動組織で構成されるが、今回の会議には十八人が参加した。

会議に先立ち、会議参加者は、恒例の萩教会から萩キリシタン殉教者記念公園まで「萩巡礼ウォーク」にも参加。

会議ではこれまでの活動の紹介と共に、教会スタンプラリーに倣って、各巡礼行事等のスタンプ作成を決議した。来年度から少しずつお披露目し、色々な巡礼行事等で参加者に押ししてもらえたらと思っています。

**予備神学校
日本カトリック神学院
「召命の集い」へ参加**

去る十一月三日、広島教区予備神学校は、司祭一名、スタッフ四名、生徒六名の計十一名で、日本カトリック神学院福岡キャンパスで行われた「召命の集い」に参加いたしました。

神学院の門をくぐると、自然に囲まれた壮大で美しいキャンパスが私達を迎えてくれました。各教会が、フードコーナーや書店などの出店を行い、神学院からも様々な企画が行われ、尺八の演奏やクイズコーナーなど大人から子どもまで楽しめる充実した内容でした。神学生というと、彼らは勤勉であるという先入観を私達は持つてしまいが（もちろん彼らが勤勉なのは間違いないのですが）、彼らの意外な一面を見る良い機会となりました。参加した生徒達にとっても神学校、神学生を身近に感じる良い体験となったのではないのでしょうか。生徒達の中からこのキャンパスに入学する人が出るよう祈りたいと思います。最後に、駐日教皇大使、ジョセフ・チェノットウ大司教様主司式によるミサに与りまし



日本カトリック神学院福岡キャンパスで学んでいる
ロイ神学生（広島教区）を囲んで

た。約千三百名が一堂に会するミサは圧巻で、神様が一つに集めてくださったことに感謝しました。イエス様はおっしゃいました。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださいるように、収穫の主に願いなさい」（マタイ九・三十七―三十八）。一つになった私達の祈りが天まで届きますように！そして神様が、多くの働き手を送ってくださいますように！

『家族大会』開催

エスを見ることが必要である。弟子であることは、神との個人的な関係だけではなく、宣教活動が必要である」と話され、私達一人一人も召し出されていることを強調なさいました。広島教区予備神学校も召命促進をモットーとして活動しております。今後とも変わらぬ皆様方のご理解、お祈り、そしてご協力をお願い申し上げます。

去る十一月十五日（日）祇園教会において、広島地区の信徒約二百七十人（子ども約百人、大人約七十人）が集い、「家族大会」が開催されました。

信仰を次の世代に伝えていくために、私たちが何ができるかを考える場として、大会テーマ『信仰くやっぱり家庭から』として企画しました。
まず午前の部は、幼稚園ホールで、地区長のヴィタリ神父の開会の挨拶と祈りに続き、ステージで歌や劇など、各教会からのパフォーマンス、予備神



祇園教会、集合写真

学校の報告が披露されました。

小学校の学習発表会のようなイメージでしたが、事前練習の中で横のつながりができたことや、自分たちの教会を越えて新たな発見がありました。また、本大会の目的のひとつであった事前準備を通して、各家庭で話し合ったり練習したり、そうした家族の時間が持てた方もいたようです。

昼食は有志の方々協力により、カレーライスが用意され、参加者全員で同じ食卓を囲みました。大会のために、お米、ジュース、お菓子などの寄付も頂きました。
午後の部は子どもと大人に分かれた内容です。

子どもプログラムは、中プロ広島スタッフが中心になって、ゲームを企画してくれました。子どもたちは駆け回り、全身で喜びを表していました。青年が中高生をサポートし、上級生が下級生の面倒をみました。

大人プログラムは、まず聖堂に集まり、全体会として、広島地区で事前実施されたアンケートの内容が紹介されました。「家族で一緒に食事を

をする時間はありますか」「家庭での祈りの時間はありますか」「子どもがミサに与れない理由は何ですか」など、家族、祈り、信仰継承に関するアンケートです。また、「家庭の祈り」の冊子の紹介、ヴィタリ神父からは「家庭は人生の基礎、子ども達の基礎であり、家庭を良くすることを考える必要がある。良くするために必要なことは『時間を掛けること』、『言葉だけで済まさないで、行いをもって示すこと』です。『家庭で一緒に祈ること』は神様が家族に望まれていることを思い出すために必要」と話されました。

続いて、八グループに分かれて、分かち合いが行われま



ゲームを楽しむ子どもたち

した。外国語グループも用意しました。テーマは『家庭と一緒に過ごす時間を大切にしよう』祈りと家庭の場を見直しましょうです。子育てと仕事の両立でミサに与れない現実、苦悩について語ってくれた方、忙しくても食前に「神様感謝します。神様いたできます。」と唱える時間くらしいはある、という意見、ミサに与れない日曜日は、家族で神様に一週間のことを報告して許して頂いている、という話もありました。分かち合いを通して、色々なことに気づくことができました。

大会の最後は、聖堂でミサが行われ、聖家族の模範にならって生活できるように、祈りを捧げました。

この大会に参加した記念に「壁飾りになる聖家族の御絵」を頂きました。大会を通して、家族で支え合って、信仰継承していくことを願っています。

**重要文化財
世界平和記念聖堂
世界平和記念聖堂の
耐震補修工事の概要**

重要文化財・世界平和記念聖堂の保存活用委員会は、昨年十二月十三日に開催された教区宣教司牧連絡会に耐震補修工事の概要を報告し、募金活動への積極的な取り組みを要請しました。本年九月の事業着手に向けて文化庁や公共団体との調整が大詰めの段階にあり、信徒の皆様は事業の理解と協力を得て推進したいと考えています。

聖堂の耐震補修工事は、欄間彫刻のある正面玄関付近の耐力不足を解消することが目標です。外観に影響を及ぼさないよう建物内の聖歌隊席に通じる階段室や玄関脇の倉庫の壁を補強するほか、洗礼堂やマリア聖堂に通じる脇玄関の広間に鉄骨の柱、梁のフレームを設置して補強します。また聖堂全体で構造的なバランスを取るため、内陣のモザイク壁画のある壁の下部

にスリットを設けます。このほか、信者席の上にあるシャンデリアの落下防止策も行う予定です。

鍾塔については、高さ四十五メートルの構造体が地盤の液化化現象により傾く恐れがあり、鍾塔周辺に杭基礎を新設します。このほか、コンクリートの壁が少ない鍾塔の上階を鉄骨で補強し、各階の四隅に上階から基礎まで鉄筋棒を貫通させ、地震時の揺れを制御します。聖堂の補修工事では、外装レンガや打ち放しコンクリートの劣化部分を補修し、劣化を防ぐ対策を行います。また、雨漏りを繰り返す大屋根の鉄骨の補強と銅板の葺き替えを行うほか、内陣のドーム天井も鉄骨の補強と天井仕上げを全面的に更新。このほか、外壁から浸透した雨水の痕や亀裂などの内壁の補修、ステンドグラスの修復などを行う予定です。

昨年戦後七十年に当たり各種の行事が行われました。このうち全世界の人々との友愛と平和のシンボルとして建設された記念聖堂を証しする出来事がありました。十月十一日にドイツ・ポーフム市にあるプロテスタント教会の人々が来堂され、平和の分かち合いが行われました。同市



ドイツ・ポーフム市のプロテスタント教会の方々との交流会の様子。右、ドイツ語で説明をする福田神父

は、記念聖堂の平和の鐘を制作・寄贈したポフメル・フェライン社のあった都市で、記念聖堂の平和の鐘の存在を思い起こして来堂されました。第一の鐘の銘に「戦争の道具たりし鋼鉄はもはや民々を平和に招く」とあります。

**世界平和記念聖堂募金
郵便振替口座**

口座名：カトリック広島司教区
口座番号：01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

**J-CARM広島便り
J-CARMの担当を
お引き受けて
防府教会 藤本忠文**

それは二〇一四年十二月のある日でした。午後八時過ぎに卓上電話が鳴りました。声の主は細江教会の榎谷さんでした。榎谷さんは、私が支援をしている岩手県大槌町の被災地の方々が作っておられる人形販売の協力者の一人です。その榎谷さんがいきなり、「藤本さん、一生に一度のお願い」と言って電話をしてこられました。

「私で出来ることなら何なりと協力しますよ。」と返事をしましたら、最近体調が良くないので、山口・島根地区のJ-CARMの担当を引き受けてくれないかとのことでした。体調がすぐれないとうかがい、仕事の重要性を考慮することなく引き受けました。

広島県の会議で小松さんの活動内容を聞き、宇部での四名のフィリッピン女性に関係する事件をTV報道で知るなどして、J-CARM担当者の仕事の重要性を認識するようになりました。在日フィリッピン、

ヴェトナムの方たちが巻き込まれた問題の裏には、とても複雑で簡単に解決できるものは一つもありません。宇部のケースも専門的な知識が不可欠です。

また、各教会の担当者は、それぞれの地域の関係者の実情さえ十分に把握できていません。名簿づくりから始めましたが、全員顔を見たわけではありません。また、緊急時にすぐ連絡が入るほどの信頼関係が出来ているわけでもありません。外国から来て慣れない日本人での生活をしておられる方々が困ることのないように、J-CARMの担当者を中心とした教会のみならず日頃話が出来る関係を作ることが大切です。日常相談にのれるようになりを持ち、問題が大きくなる前に話せる関係を作りたいものです。私自身の英国・ドイツでの数十年の生活経験からも、その国の方々と話せる関係を持つことはとても大切だと思います。

新年にはもう少し役立つ仕事をしたいと思っています。

地区便り

山口島根地区

*クリスマスは山口から

十二月一日(火) 十八時から山口サビエル記念聖堂にて「十二月、山口市はクリスマス市になる。」の「クリスマスセレモニー音楽の祭典二〇一五」が行われた。

そのほか、十一月末から十二月にかけて、山口・細江・防府・長府・徳山・浜田など、各地でクリスマスコンサートが開かれた。防府では、キリスト教四派合同キャロリングの催しもあった。

十二月十三日(日)、柳井市中央公民館で開かれた「CaRM待降節黙想会」は、約四十名が参加した。

*創立記念関係

十一月七日(土)、宇部教会創立八十周年記念ミサ&式典&祝賀会が行われ、キリスト教連合の牧師さんたちやボーイスカウト宇部十五団の皆さんも来られ、盛大にお祝いできました。

関連行事として、十月四

日(日)、パイプオルガン奉献記念コンサート(演奏・寺岡恵美山口教会オルガニスト)。十一月二十一日(土)、シスター渡辺和子講演会(渡辺翁記念館にて。立ち見制限も含めて千五百名)。十一月二十一日(土)〜二十九日(日)、マザー・テレサ写真展(延べ六百五十名)。

十一月二十八日(土)、片柳神父講演会。これまでの一連の流れのおかげで、二百名来訪。

十一月二十三日(月)、益田教会創立五十周年記念ミサとお祝い会が行われた。

岡山鳥取地区

*米子教会八十周年&境港教会五十周年を祝う

山陰、米子の地にカトリックの種が蒔かれて、およそ八十年が経ち、十一月三日(火・祝)、米子教会八十周年、境港教会五十周年の記念行事が行われた。

教区管理者の肥塚倭司神父主司式によるミサには約二百四十名が参加。ミサ後の祝賀会はフィリピン共同



米子教会、聖堂にたくさんの信者が集まった

体の参加もあつて二百五十名を超える感謝の集いとなった。祝賀会のアトラクションは、飛び入りのフィリピンの踊りやワレ神父の歌などで、賑やかに盛り上がった。

また、記念講演では、多摩教会主任司祭晴佐久昌秀神父から「今ここにいるあなたに福音を語ります」と、力強い言葉で励まされ、感激の一日を過ごした。

*日本カトリック難民移住移動者委員会大阪教会管区セミナー

日時：二月十一日(木) 祝
会場：岡山教会

十三時三十分〜
十六時三十分

海峡からの風 39

下関労働教育センターだより

「別の道を」

救い主誕生に最初に招かれた東方からの三異邦人達は、当時のローマ帝国のユダヤ地方傀儡権力(ヘロデ王)の指示には従わず、民衆の情報(夢)に依り「別の道」から脱出します。(マタイ二・十二)。●人類待望の現実、愛と正義と平和の国の新しい誕生。福音は、少しずつ(ベトレヘム、あなたは小さくない!)二十世紀後半から、人類の多大な犠牲の上に「平和への希求」として生まれています。広島での教皇ヨハネ・パウロ二世の平和メッセージの先駆者憲法九条は荒れ野に拓かれた道です。「広島教区の宝」は世界の宝に成っています。被爆のマリアも国連始め世界に母心のメッセージを伝え巡りました。●二〇一一年の大震災と原発崩壊の警告は、二〇三〇年迄に原発全廃の希望の星まで輝かせました。●しかし人類を約束の地へ導く砂漠の道を妨げる「黄金の牛」(教皇フランシスコ

「使徒的勧告 福音の喜び」五十五参照)は、格差と排除という策を弄して、形振り構わず人間の尊厳を踏みしめる偶像礼拝として人々を崖淵に追いやりませす。特に弱者・端っこの人々を。●日本国憲法は日本の主権者国民のものであり、神の似姿である人間の尊厳を守り高めようとしませんが、正に恣意的に時の権力よって変化され、その真意が破壊されています。判断の基にもなる情報メディアは操作され、国民の愚民化を益々進めています。それでも発言し行動する人々の現状をメディアは知らせません。沖繩辺野古での日々の出来事も福島での出来事、現実に人々は無知に成っています。自らの党の憲法改定案五十三条・二十日以内に臨時国会開催も反故にして、特別秘密保護法の国際的疑問視からの国連調査も延期させ、インドへの新幹線、其の動力源原発売り込みの政治行動も「魂を失った」人間・政権の行動です。「世界の広島」からの発信と行動が、教区の風として今こそ望まれています。

(林尚志神父)

テーマ…「隣のベトナム人
と私たち」

***平和アピール1981記念
行事**

日時…四月二十四日(日)
会場…鳥取教会

記念講演…林尚志神父

(イエズス会)

(毎年二月の行事を北地域
で開催のため春に延期)

広島地区

***広島地区宣教司牧評議会**

日時…一月十日(日)

十四時～十六時

場所…広島カトリック会館

***広島地区女性連合研修会**

日時…一月二十二日(金)

十時～十五時

テーマ…家庭・召命・祈り

ミサ司式…加藤信也神父

(祇園教会 主任司
祭・イエズス会)

場所…世界平和記念聖堂

ミサ後研修会(マリアホー
ル)

***信徒のための「霊操」セ
ミナー第四回**

日時…一月二十三日(土)

十時～十六時

*第五～八回は未定

指導…塩谷恵策神父(イエ
ズス会・西日本霊性

センター代表)

場所…観音町教会

***平和アピール1981記念
行事**

日時…二月二十一日(日)
九時半～

ミサ・講演…勝谷太治司教
長

(札幌教区)

場所…世界平和記念聖堂

***広島キリスト教一致祈禱
集会**

日時…一月二十四日(日)

十四時半～

場所…世界平和記念聖堂

***広島地区財務委員会**

日時…一月三十一日(日)

十四時半～十六時半

場所…広島カトリック会館

多目的ホール

***聖体授与の臨時の奉仕
者・フオローアップ講座**

日時…二月十四日(日)

十四時～十六時半

場所…広島カトリック会館

多目的ホール

伯雲ブロック

場所…広島カトリック会館

多目的ホール

***永井隆博士追悼・平和祈
願ミサ**

二〇一五年十一月二十三
日(月・祝)、雲南市三万

屋文化体育館アルパスで、

パウロ永井隆博士追悼・平

和祈願ミサが、永井博士記
念館の館長、如己の会の
方々、アルパスの職員の協
力で行われた。

十時から伯雲ブロック三
教会の主任司祭団と大西助
祭によってミサが捧げられ
た。ミサには、雲南市議員
をはじめ多くの方々が集ま
り、永井博士の安息と神様
の愛に満ち溢れた平和を願
い、ともに祈りを捧げた。

ミサ後、純心聖母会浦上
修道院のSr.山口キヌエによ
る講演が行われ、故Sr.江角
ヤス(純心聖母会創立者)
と永井博士との思い出など
を話された。講演の後、Sr.
山口を囲み皆で昼食をいた
だきながら分かち合いが行
われた。

(松江教会・木村公道)



シスター山口キヌエ(純心聖母会)

広島教区の施設
シリーズ 巡回教会めぐり
山口小教区 地福教会 (28)

地福教会の歴史は、一世紀
以上も前、萩から津和野へ向
かうヴィリオン神父の旅の途
上、ここ地福村(現在の山口
市阿東地福)での説教から始
まったとされています。そし
て、一九〇八年(明治四十
一年)に洗礼を受けた信徒の家
が仮聖堂となり、地福の共同
体が誕生しましたが、山村地
域での信仰は他の人々の理解
も進まない中で困難もあつた
と記録されています。しかし、
信仰に結ばれた信者の熱心な
活動により地域にとけ込んだ
強い共同体となつて今に至つ
ています。現在の教会聖堂は
一九五四年(昭和二十九年)
に信徒の献金を中心にして完
成したものです。

山口県の北東部、山口から
津和野へ向かう国道九号とJ
R山口線に沿うように広がる
山口市阿東地福(旧阿武郡阿
東町)の中心部に、教会はあ
ります。付近には西日本最大
の徳佐りんご園が、さらに春
から秋にかけて運行される
「SLやまぐち号」の撮影ポ
イントが点在するため、年間
を通じて県内外から多数の人



地福教会(写真:山口教会 中村昇さん)

が訪れるところですが、敷地
内には「隠れ切支丹墓標」
と書かれた看板と三基の墓
標が設置されています。こ
れは、キリシタン迫害から
逃れるため、山口から峠を
越えてこの地を経由し萩市
紫福へと向かった信者の一
部がこの地に留まって潜伏
したことを証明する資料と
なるものです。これら墓標
の石材は紫福で産出される
粗面安山岩で、紫福に多数
残されているキリシタン墓
と形式も全く同一であるこ
となどから、別れて潜伏後
も互いに連絡・交流を行つ
ていたと推定されます。

地福教会のミサは、可能
な限り毎月第三日曜日に山
口教会の神父が捧げしてい
る。

青少年の活動

広島教区青年大会

「私たちとしての教会」

2015

十一月七日〜八日にカトリック幟町教会で、『広島教区青年大会2015』私たちにとつての教会』を開催しました。

二〇一一年以来、四年ぶりとなる今大会は、広島教



「沈黙」

岡山・岡山南教会

ウィル神父（淳心会）

神は、私たちの人生のどんな時にも、私たちが必要とすることをよくご存知です。くどくどと言葉を重ねなくても、沈黙のうちに開かれた注意深い心は、多くの言葉よりも重要です。神の沈黙と私たち自身の沈黙に心を開けば開くほど、本



(87)

区だけでなく、東京や福岡などから参加者計五十五人が集まり、一泊二日を和気あいあいと過ごしました。一日目は、自己紹介から始まり、分かち合いや服部神父様のお話、レクリエーション、夕食は美味しいタコライス。テゼの祈りでは楽器隊で豪華に、そして盛り上がった茶話会。二日目は、しっかりと分かち合いをし、おむすびと豚汁のお

昼ごはん、楽しいレクリエーションをして、最後はミカエル神父様司式の青年ミサで幕を閉じました。

参加者からは、「来て良かった、楽しかった」「また来年も参加したい」との声をいただき、とても嬉しく思います。今回、こうしてたくさんの人と出会えたこと、集まったことはやっぱり神様のおかげです。

十月の教区報で大西助

ものではありません。却つて、沈黙は他者との関わりを深めます。うわべだけの言葉、見かけだけの判断ではなく、関わりの深みへと私たちを導いてくれます。

「人間という生きものが自分たちだけのことしか考えない、そんな毎日が続いているうち、生きものたちの歌がひとつ消え、ふたつ消えて、それがいつのまにか、なにも聞こえない青い沈黙の海」ではなく、神のうちに深く沈められて、豊かな実りをもたらす沈黙の海となるでしょう。

沈黙の聖母よ、あなたは主の神秘の深い淵に身を沈

祭が「からし種」のたとえ（マルコ四・三十）三十二）を引用していたとおり、この青年大会によってさらにつながりが広がり、青年が各々の場所ですます活躍できますように。

次回はさらにパワーアップした青年大会へご招待したいと思っておりますので、お近くの青年にお声かけください。今回支えてください。黙つてすべてを思い巡らしておられます。けれども同時に、カナでなされたように、兄弟姉妹を気遣われます。

私たちにわからせてください。沈黙の大切さを。同時に、沈黙が兄弟姉妹への無関心ではないことを。むしろ、エネルギーの泉であり、光を放つものであることを。あなたの沈黙のマントで私たちを包み、あなたの強い信仰、高い希望、そして深い愛を、私たちにも分け与えてください。分裂の海に喘ぐこの世界の中で、旅を続ける私たちと共に歩んでください。

さった神父様や信徒の皆様、スタッフの青年たち、そして参加の皆様、本当にありがとうございました。（青少年情報センター・石井美咲）

石井美咲



世界平和記念聖堂にて



クリスマスと新年おめでとうございます。昨年末の十二月十三日に「いつくしみの特別聖年」の扉が開かれ、扉をくぐった。いつもの扉に違う力を感じた。「愛といつくしみのあるところ、神はそこにおられる」二〇一六年はマザーテレサも列聖されるという。神のいつくしみに信頼して私たちも歩んでいきますように。（かぴ）